

第1学年 図画工作科学習指導案

第1学年

7名

指導者

1 題材名 「まごころべんとうをつくろう」

— あいてのかおを おもいうかべて — 〈A表現(2) B鑑賞〉

2 題材設定の理由

本学級の子どもたちは明るく素直で、何事にも一生懸命取り組もうとする姿が、いろいろな活動場面で見られる。子どもたちは小学校入学以前から、粘土を使ったあそびを経験しており、「ねんどでつみき」という題材で粘土を使った学習を行った際には、「やったあ」と喜ぶ子どもと「粘土はあまり好きじゃない」という子どもに分かれた。しかし、手や指を使って自分の思ったものをつくったり、友だちのつくったものを見て感想を言ったり、つくり方を教えてもらって自分も試してみたりする活動をする中で、「苦手」と言っていた子どもたちも熱心に活動し、どの子も時間いっぱい楽しみながら学習に取り組むことができた。

本題材「まごころべんとうをつくろう」は、紙粘土や身の周りにある材料を使ってお弁当をつくる学習である。子どもたちにとってお弁当はとてうれしいものである。お弁当を持ってきた日、子どもたちはおうちの人につくってもらったお弁当を食べる時間を、朝から心待ちにしている。そんなお弁当を今度は自分がつくるということで、子どもたちに興味をもたせたい。活動のはじめに、誰のためのお弁当をつくるかを考えさせる。相手を決めることで、つくりたいお弁当をより具体的に思い浮かべることができるのではないかと考えた。お弁当に何を入れるかを決める際には、「どうしてそれを入れようと思ったのか」ということについても子どもの思いを引き出したい。その過程で、お弁当を食べる相手の好みを思いやったり、色あいや栄養について考えたりすることで、子どもなりの思いをこめて、お弁当をつくることのできるのではないかと考えている。製作後は作品について学級で話し合ったり、お弁当をつくった相手に感想を聞いたりする活動を設定し、「つくる喜び」を味わわせたい。

これらの活動を通して、つくりたいものを自分の中でしっかりともち、どうすればそれを表現することができるかを考える力や、自分で試行錯誤したり、友だちと教え合ったりしながらよりよい表現につなげていけるような技能を育てたい。

指導に当たっては、子どもがもっている、お弁当や食べ物のイメージを表現しようとする気持ちを大切に、自由な表現活動ができるようにいろいろな材料を用意したり、作品づくりについての助言を行ったりするなど支援したい。また、作品を友だちと見せ合ったり、お互いのよさを伝え合ったりしながら、つくり方のアイデアを広げたり、思いを深めたりしながらよりよい作品づくりにつなげていきたい。

本時は紙粘土などを使って、お弁当に入れるものをつくる活動の2時間目である。自分がつくろうとしているお弁当をもう一度はっきりとさせるため、本時でつくるものやその色や形を確認させてから活動に入る。一人ひとりの思いをくみ取りながら作品づくりを支援したい。また、友だちの作品を鑑賞する時間を設け、お互いの作品のよさや工夫を認め合えるような発言を引き出したい。

3 題材の目標

- 身の周りにある材料に興味・関心をもち、作品づくりを楽しむことができる。
- お弁当に入りたいものを考え、つくりたいお弁当を思い付くことができる。
- お弁当をつくるために、色や形、材料などを工夫して表現することができる。
- 自分がつくった作品について話したり、友だちの話を聞いたりして、色や形、材料の感じなどに気付くことができる。

4 食育の視点

- 食べ物に対して興味・関心をもち。 (食の重要性)
- 食事を作ってくれている人の思いを感じ、感謝の気持ちをもつ。 (感謝の心)

5 題材の評価規準

- 造形への関心・意欲・態度
身の周りにある材料に興味・関心をもち、作品づくりを楽しもうとしている。
- 発想や構想の能力
お弁当に入りたいものを考え、つくりたいお弁当を思い付いている。
- 創造的な技能
お弁当をつくるために、色や形、材料などを工夫して表現している。
- 鑑賞の能力
自分がつくった作品について話したり、友だちの話を聞いたりして、色や形、材料の感じなどに気付いている。

6 指導と評価の計画 (5時間) (本時3 / 5)

次	時 間	学 習 活 動	評 価 規 準 ・ 評 価 方 法			
			造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
一	1	お弁当をつくりたい相手を決め、インタビューを基にどんなお弁当をつくるか決める。	身の周りにある材料に興味・関心をもち、作品づくりを楽しもうとしている。 (観察・対話)	お弁当に入れたものを考え、つくりたいお弁当を思い付いている。 (イメージカード)		
二	3 本 時 2 / 3	つくりたいお弁当を楽しんで表現する。			お弁当をつくるために、色や形、材料などを工夫して表現している。 (観察・表現)	
三	1	自分がつくったお				自分がつくった

	弁当を紹介したり、 お互いに感想を言い 合ったりする。				作品について話し たり、友だちの話 を聞いたりして、 色や形、材料の感 じなどに気付いて いる。 (観察・発表・ふ り返しカード)
--	-----------------------------------	--	--	--	--

7 本時の学習

(1) 目 標

自分がつくりたいお弁当を、色や形、材料などを工夫してつくることができる。

(2) 展 開

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 ・ 評 価 方 法
1 本時の学習のめあてを確認し、活動への意欲をもつ。	○ つくるものや、色や形を確認させることで本時の活動をはっきりさせ、活動に入りやすくする。	
2 お弁当に入りたいものを、色や形、材料を考えながらつくる。	○ 表現したいものがつくれるような場の設定や、材料の準備をしておく。 ○ 一人ひとりの思いを引き出しながら、それぞれの表現を大切にした助言や支援をしていく。	[創造的な技能] お弁当をつくるために、色や形、材料などを工夫して表現している。(観察・表現)
3 本時の学習をふり返り、次時への意欲をもつ。	○ 自分がつくったものを紹介し合い、お互いの作品のよいところを認め合えるようにする。	

(3) 評価および指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	自分がつくりたいお弁当をつくるために、色や形、材料の感じを捉え、自分のイメージをもち、工夫して表現している。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	思いついたものの色や形のイメージを引き出し、お弁当に入りたいものを思い出させ、それを表現するための材料や色についての助言をし、製作を支援する。